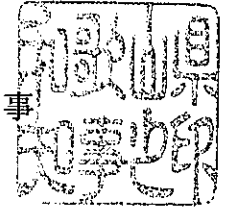


道政 第 98 号
平成24年7月30日

国土交通省
近畿地方整備局長 様

和歌山県知事



道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

平成24年7月25日付け国近整道一計第17号で照会のありましたこのことについては、下記のとおりです。

記

近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）における対応方針については、【案1】海側ルート（全線新設案）を進めることに同意します。

つきましては、県民の将来のチャンスを保障するため、また東海・東南海・南海地震への備えとしても、一日も早い近畿自動車道紀勢線のミッシングリンクの結合が不可欠であり、平成25年度に事業化されますよう、特段のご配慮をお願いします。

また、具体の道路構造の検討に際しては、利用しやすいインターチェンジ配置、防災機能の観点から緊急出入口の設置、及び周辺環境などに十分配慮願います。

連絡先：和歌山県県土整備部道路局道路政策課

TEL073-441-3116

す産建第2-76号
平成24年7月3日

国土交通省近畿地方整備局
紀南河川国道事務所長
吉谷幸二 殿

すさみ町長
岩田 勉



近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）の計画段階評価に関する
意見照会について

標記の意見照会について、別紙のとおり回答しますのでよろしくお願い致します。

紀勢線（すさみ～太地）に関する意見照会

【すさみ町】

○当地域に、災害に強い道路、時間短縮効果がある道路は必要か。

現在すさみ～太地間の主要幹線道路は国道 42 号であるが、急カーブが多く、日常生活における移動に時間がかかる状況である。また、去年の台風 12 号により紀南地方に甚大な被害が発生した時にも、国道 42 号が寸断され、集落が孤立する状況となった。東海・東南海・南海地震により、沿岸部には甚大な津波の被害が想定されているところ、国道 42 号では、住民の命を守ることはできない。

以上の現状と想定される状況を考慮すれば、この紀南地方にとって、防災・医療・流通等の多角的な「命の道」として、高速道路（すさみ～太地）は必要である。

○（すさみ～太地）の整備により、期待される効果

災害時に物資の輸送、救援活動のための医師をはじめとする医療スタッフの派遣、救急患者の搬送にかかる時間の短縮が図られる。

海側ルートが採択され、高速道路への非常時のアクセス道や避難階段等の避難路を整備すれば、沿岸住民の津波避難場所として期待できる。

○ルートを検討する際に、配慮すべき事項

工事費が安く、早く完成できること、津波による大規模災害発生時に緊急輸送路や復旧支援道路として集落に迅速にアクセスできること、日常生活においても集落から利活用しやすいこと、沿岸集落の津波避難場所として有効に活用されることを期待する。

○インターチェンジ設置に関し、配慮すべき事項

インターチェンジ設置場所は、病院・消防・役場等の防災拠点の近くに設置し、アクセス道路についても防災上安全な道路構造とする。

大規模災害時には高速道路から各集落にアクセスできる緊急時非常アクセス道を設置し、緊急輸送はもとより住民の避難路として有効に活用できることを期待する。

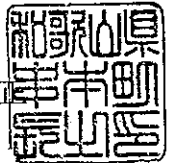
○当地域の道路（主に国道 42 号）についての現状・課題

国道 42 号は南進するほど急カーブが多く、移動時間が長時間となる。また、台風による波が堤防を越波し通行止めになることがしばしばある。このような状況から、災害時は当然だが住民生活の主要幹線「命の道」として位置づけることはできない。

申 建 第 117 号
平成24年 7月 2日

国土交通省近畿地方整備局
紀南河川国道事務所長 様

串本町長 田 嶋 勝



近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）の
計画段階評価に関する意見照会について（回答）

平成24年 6月22日付国近整紀二調第67号で照会のあった串本町意見につ
いて、別紙のとおり回答します。

紀勢線（すさみ～太地）に関する意見照会

○当地域に、災害に強い道路、時間短縮効果がある道路は必要か。

近未来に発生するとされる東海・東南海・南海地震発生時には、我が町、串本はおろか紀伊半島が完全に孤立し、津波等により甚大なる被害を受けることは明らかであり、唯一の幹線道路である国道42号は、津波等により浸水する箇所が多く、避難、復旧、復興道路として「命の道」の役割を果たすことは非常に困難であります。

また、串本は海岸線にそった低地に民家が集中し集落を形成しており、背後は急峻な山々に囲まれ、津波等からの避難が非常に困難な状況であり、地震に強く、津波の影響を受けない高さの位置に高速道路を建設していただければ、復旧、復興のための道としてだけでなく、高速道路自体が津波からの避難地としての役割を果たすことが可能であり、インターチェンジだけでなく、津波等の緊急時にはいろんなところから高速道路内へ避難できる手段および方法をこうじていただきたい。

○（すさみ～太地）の整備により、期待される効果

医療現場において、第2次救急医療では対応できない複数の診療科領域にわたる重症患者の搬送等において、近隣の医療施設へ天候に左右されない短時間での搬送が可能となる。

農林水産業、観光産業は、当町の基幹産業であり、京阪神との関連は非常に強いものがあり、高速道路が繋がれば、時間短縮が期待され、新鮮な農作物、鮮魚の出荷等、物流の高速化が可能となり、また、観光客についても日帰りでも楽しめるような多種多様な形態での観光客の来町が期待できる。

○ルートを検討する際に、配慮すべき事項

工事費が安く、経済的であり一刻も早く完成できること、住民が生活する地域に近く、避難路、避難地として活用できること、自然環境に配慮すること、トンネルばかりでなく風光明媚な海岸線等が展望でき運転にめりはりができて安全走行ができること。

○インターチェンジ設置に関し、配慮すべき事項

東海・東南海・南海地震発生時に、国道 42 号等が津波による浸水、崖崩れ、落橋等により孤立が想定できる箇所に、救助活動や復旧活動のため迅速にかつ効率的に到着できる場所、また、利便性を考慮した町中心部の緊急車輛等が運行しやすい、くしもと病院、消防署等に近い場所など町内に数ヶ所の設置を希望します。

また、インターチェンジ以外にも、緊急時に利用できる出入り口を設置していただき、災害発生時に孤立した箇所へ、速やかに到着できるようにしていただきたい。

○当地域の道路（主に国道 42 号）についての現状・課題

多くの住民が生活する海岸線を走る唯一の幹線道路である国道 42 号は、急カーブが多く大変走りにくい危険な道路であり、また、異常気象時の降雨、高波による越波等により通行規制がかかる区間が大変多く、改良を必要としているのが現状であります。

多くの箇所で津波等による浸水が予想されており、災害発生時の「命の道」として、役割を果たすことは非常に困難な状況であります。

古川建第215号
平成24年6月28日

国土交通省近畿地方整備局
紀南河川国道事務所長 様

古座川町長 武田 丈夫



近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）の計画段階評価に関する
意見照会について（回答）

平成24年6月22日付け国近整紀二調第68号で照会のありました標記については、下記のとおりです。

記

平成23年台風12号による紀伊半島大水害では、主要な幹線道路がいたるところで通行不能となり、食料品など生活物資の調達もままならず、都市部からの救助・救援や物資輸送に支障をきたしました。

このように現在の幹線道路では、大水害や東海・東南海・南海地震時には被災により機能が十分に果たせない危険性があります。

災害時ばかりではなく、通院、救急搬送、買い物、農林水産業、観光産業、商工業など様々な場面においても、都市部までの所要時間が長いことから、山間部に位置する古座川町住民は大きな経済的・時間的負担を強いられています。

このため、地域活性化はもとより、大規模災害にも備える事が可能な高規格道路の早期事業化について、特段のご配慮をお願い申し上げます。



那 建 第 6 6 号
平成 2 4 年 7 月 3 日

国土交通省 近畿地方整備局
紀南河川国道事務所長 吉谷幸二様

那智勝浦町長 寺本真



近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）の計画段階評価
に関する意見について

仲夏の候、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、那智勝浦町発展につきまして格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）は防災・救急道路としての役割は勿論のこと、農林水産業の経済的な面からも地域の活性化としての道路として必要不可欠であります。

つきましては、計画段階評価から新規採択時評価へさらには事業化へと1日も早い前進をよろしくお願い申し上げます。



太産建第 527-1 号
平成24年 6 月27日

国土交通省近畿地方整備局
紀南河川国道事務所長 様

太地町長 三 軒 一



近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）の計画段階評価に関する
意見の提出について

平成24年6月22日付け国近整紀二調第70号で照会のありました標記の件に
ついて、別紙のとおり提出しますので、よろしくお願ひします。

対応方針（原案）の作成にあたっての意見

当地域においては、国道42号が唯一の幹線道路であるが、荒天時における交通規制が頻繁に発生する脆弱な道路であり、また、近い将来発生予想されている「東南海・南海地震」による災害で当道路が被災し寸断された場合、沿線の各市町村は分断され孤立状態となることが危惧されており、災害時における緊急救援物資や救急医療活動など緊急輸送道路としての役割を持つ道路として、また、物流の面からみても現在、当町において水揚げされた海産物は九州地方、京阪神地方への出荷を行っているが、輸送時間がかかり新鮮な状態での供給がされてなく、観光面からも都市圏からの所要時間が短縮されることにより地域振興の活性化が図られることを期待する。

このことから、近畿自動車道紀勢線（すさみ～太地）の早期着工・完成が望まれる。又、紀伊半島を周回できる広域的な道路のネットワーク化を形成するためにも同自動車道の整備は必要不可欠である。